

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700117		
法人名	株式会社 アライブ		
事業所名	グループホーム 楓		
所在地	岐阜県恵那市三郷町野井1736-244		
自己評価作成日	平成27年2月14日	評価結果市町村受理日	平成27年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=21">http://www.kaikokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=21</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307
訪問調査日	平成27年4月13日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」グループホーム楓は車椅子となっても安心な設備を整えていますので、ADLの変化による居住環境を変えることなく、慣れ親しんだ場所で安心して生活を続けて頂く事ができます。人の五感を大切に空間や庭園 農園など、敷地内に居ながら四季感じ、楽しんで頂く事が出来ます。またスカイブ通話により、ご家族様や遠方にお住まいのお子様と、いつでもテレビ電話で顔を見てお話しをして頂く事が可能です。自治会のご協力を頂き、地域行事への積極的な参加や、地域の方を交えた施設行事を行ない、入居者様と地域住民の皆様が顔なじみの関係となれるよう、職員が一丸となり取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム楓」は季節の美しい変化とそこにまつわる思い出を大切にしたいとの思いから創設され、5年目を迎える事業所である。職員は丁寧な言葉遣いで、相手の反応を確認しながら行動に移し利用者へ寄り添うケアを垣間見ることができた。また、利用者の友達が連れ立って会いに来られるケースもあり、馴染みの関係を大切にする支援も行っている。共用空間は天井が高く開放的な造りとなっており、自然の採光や風の流れを感じられるスペース、又広い窓の外には雄大な景色が見られる。リビングにはそれぞれ思い思いに寛ぐ利用者の光景があり、オープンキッチンの水の音や料理の匂いが漂いまさに家庭的な事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」という理念の下、業務にあたれているか毎月の定例会議時に話し合いをもち、日々意識する事で、常にサービスの質の改善に繋がるよう努めております。	家族の一員として生活する上で、利用者はどんなことをすればどんな表情をされるのか、情報を共有しともに感じるようにしている。サービスの方向性を意識し理念に立ち返るよう、会議で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や地域内外ボランティア様より、お声をかけて頂く事が増え、地域行事や介護予防教室、施設行事を通じて顔なじみとなれる機会を多く設けており、利用者様が地域住民の方々との交流を楽しみにされ、笑顔が増えている。	地域の劇団、太鼓、フラダンス、バサラ、バンド等多彩なボランティアの訪問があり、地域や施設の行事を通し交流が増えている。幼稚園児の訪問や近所の方から野菜作りを教えてもらったり、苗を頂く等の協力がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の職場体験を受け入れており、実際に利用者と触れ合ってもらい、認知症を理解して頂けるよう努めております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告をし率直なご意見を頂き、次のステップしていると共に、地域の情報交換を行ない、サービス向上に努めております。	区長、民生委員、福祉関係の仕事をしてきた地域の代表者などの参加があり定期的に開催し、参加者からは提案をいただき、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加を依頼している事や市役所へ伺い、担当者や相談し、より良い協力関係を築く事が出来るように努めております。	家族と一緒に出かけられる福祉バスがないか尋ねたり、空きが出来た時行政を訪問して相談をしている。今後も訪問し顔の見える関係が構築できるようにしていきたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の行われる定例会議にて、周知徹底しております。またモニタリングを行ない、拘束が必要と思われる行為の原因を取り除く事に努めると共に、代償対応はないか話し合いを重ねる他、入居前のご状態をご家族様からお聞きし、ケアについてのご相談させて頂いております。	職員は、身体拘束をしないケアの理解はしている。安全の為に止むを得ず4点柵をしている方がいるが、家族に同意を得、短時間に限定し、担当者会議で検討している。押さえつける言葉「待って」も拘束に値すると考え、職員に意識を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症実践者研修の受講や、認知症リーダー研修受講者により、毎月行われるミーティングで、周知徹底しております。また日々スタッフ同士で、言動について意見交換が行える関係性を作れるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実践者研修の受講や、各自で自主的に地域などで行われる研修に参加しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居前に施設見学にご家族様や、可能であればご本人様にもお越し頂き、ご説明・ご了承頂いております。また多くの方がご心配される事柄については統計をとり、重ねてご説明し不安が取り除かれるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設けると共に、面会や家族会・行事参加の際に頂いたご意見・ご要望は、会議で話し合い、望まれる生活を過して頂けるよう努めております。	家族会は年に1回実施し、生活状況を伝える為に写真を掲示したり、役割を与えて欲しいという方には掃除を手伝ってもらうなど家族の要望に応えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見の出しやすいようコミュニケーションを図り、定例会議や日々の終礼にて、意見交換を行なう他、気づきと共に改善事項に関しては、提案まで行い、それにより翌日の全体の課題に反映しております。	職員の意見は会議や終礼で意見交換を行っており、企画提案があれば、その都度聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内のスタッフの状況は管理者を通して把握に努めるとともに、今後の改善点など定期的に会議を重ねよりよい労働環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフに担当を持つことで、責任ある行動をとれるよう努める他、施設内外の介護技術、認知症研修などにも参加することで、質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学、意見交換の場を設けることにより、外部との繋がりを持つと同時に、お互い良い刺激になるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前にご本人様に面談し、ご心配事や望まれる生活についてお伺いしております。入居後は笑顔で寄り添い、緊張を取り除けられるようにし、意思の表出して頂ける様に努め、傾聴・受容を心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にご家族様に面談し、現在の介護状況でのお悩みや施設入居に関しての不安・要望、将来の望まれる生活について、じっくりと話し合いの場をもち、入居後日が浅い時期は面会時に加え電話でも、ご様子をお伝えしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前にご本人様、ご家族様と面談、話し合いをさせて頂きご要望、気持ちを聞かせて頂き他のサービスもお話しさせて頂き、少しでもご希望に添える様に心掛けております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき、心地よい生活の場となる様、ご本人様からのお話を聞かせて頂く場を設け、問題等に色々な方法を提案させて頂き、家族の様な関係が作れる様、心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と連絡を密に行わせて頂き、ご本人様の気持ちが穏やかに過ごして頂ける様、家族会や誕生日会に参加して頂いております。またご本人様の要望にも応えて行ける様、努めさせて頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	スカイプを利用し、お互いの顔が見え、お話が出来るよう環境を提供させて頂き、また思い出の場所にも一緒に外出が出来る様、努めております。	友人の訪問が比較的多くあり、理・美容院や馴染みの場所へは家族に連れて行ってもらっている。遠方で訪問が難しい家族の場合、顔や様子が見えるスカイプを利用し関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の新しい馴染みの関係が築かれ、孤立される事のない様に媒介させて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族様からの悩み事や不安に対しお話を聞かせて頂き、ご本人様とも面会させて頂き、フォローが出来る体制を作り、相談や支援に努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の生活の拘りを職員が会話の中から汲み取る努力をし、今までと同じ生活が続けられ、又ご家族様の協力も頂き、意向に添えるよう努めております。	良く話をする人と話してもらえるようになるまでに時間のかかる人があり、家族からの話をきっかけに思いを引き出すよう把握に努めている。	アセスメントシートを導入しているが、それをどのように読み取り活用していくか、利用者の思いや意向の把握に繋げて欲しい。信頼関係を深め更なる意向の把握に期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前にご本人様、ご家族様と面談をさせて頂き、習慣、好み、馴染みの家具等も持ち込んで頂く事で生活環境を整え、安心して頂ける様に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が一人ひとりに寄り添い、心身状態、気分等を顔色、話して頂く声のトーン等からも把握、出来るよう他の職員との報告、連絡、相談が出来る様に日々、努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議での意見、要望、拘り等を聞かせて頂き、ケアカンファレンスを行ない介護計画に入れ込み、実践し、見直しを行いご本人様の思い、拘りの介護計画を作成する様に努めております。	担当者がアセスメントを行い、カンファレンスにより情報収集と情報の共有を図り、モニタリングが定期的に行われている。ケアマネジャーは確認をし、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、朝礼、終礼にて個人の様子を職員間で情報を共有し又、記録に残す事で振り返りができ、介護計画書の見直しに努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化状況変化により新たなニーズに対し、ご本人様、ご家族様と随時、話し合いの場を持ち柔軟な対応が出来るよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	契約前の生活に近い環境が作れるよう、地域資源を出来る限り利用させて頂きご本人様の意向に添えるよう努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診への付き添いや月2回の訪問診療、往診の手配等、ご本人様やご家族様とご相談・ご意向を伺いながら、かかりつけ医との密な連携をとることで、適切な医療サポートが受けられるよう支援させて頂いております。	本人希望の馴染みの医療は家族同行で継続され、情報の共有もなされている。協力医の定期的な往診により、適切な支援や夜間対応となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師が配置されており、入居者様の情報の共有を行ない、介護職員医療面の指導や、相談を受け対応支援を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	週一回病院へ伺い、ご本人様や病棟職員、ご家族様と面会し、状態把握に努め、病院のソーシャルワーカーと連絡を取りながら、早期退院に向けて相談にさせて頂いております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎える以前から、ご本人様ご家族様の意向をお伺いし、時期が来たらご家族様が代弁者として方針を選択できるように、話し合いを重ね、必要であれば何でも医師との面談の場を設け、看取りプランを家族と共に相談し、ご意向に沿えるよう支援させて頂いております。	入居時に重度化に向けて話し合い、本人・家族の意向を確認している。家族とは利用者の変化の都度、ホームでの可能な医療行為も説明し、医師管理のもと本人の負担にならない対応を随時検討し心強い支援となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域主催の一時救命処置の講習への参加、年数回看護師による訓練を受け、緊急時に対応できるよう備えております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災を想定した避難訓練や消火訓練を、地域住民の方にも参加して頂きおこなっており、緊急連絡網に加わって頂いております。ライフラインが途絶えた際に備え、備蓄食料や発電機の手配を確保しております。	消防署の協力を待ち、年2回避難訓練を行い近隣住民の参加もあり、全職員で災害対応に積極的に取り組み、安全・安心を常に心掛けている。緊急連絡に関しても十分に配慮ある体制がとられ備蓄品も整備されている。	毎回の訓練結果から反省点を記録の上、次回に向けての検討目標とし、更に安全を高めていただくことを希望する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はご利用者の言葉を受容し、気持ちを損ねる事のない言葉を選び話し掛けております。又、トイレ、入浴時には露出を少なくさせて頂くよう工夫をさせて頂いております。	利用者に対する声掛けや動作も優しいものであり、一人ひとりに対しホームの理念である”ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる”のそのままだが実行されている。利用者を思いやり細やかな気くばりが感じられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつ、どんな時も自己決定が出来るよう、声掛けの工夫をしております。悩まれる方にもご本人の思いが聞き出せる様に努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の生活リズムを把握し、又、希望を聞かせて頂きながら一人一人のペースで過して頂けるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日の始まりには好みの衣類を選んで頂き、洗面所にて鏡を見て頂き、ご自分でブラッシングして頂けるよう支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食べ物、昔ながらの食材をご利用者様より意見を頂きながら準備し又、好みを聞かせて頂き、味等に工夫をこらし食事を楽しんで頂ける様に支援しております。	食事内容は利用者一人ひとりに合う多様な形態がとられている。食材の下処理の手伝いや後片付けといった利用者の持てる力を発揮出来る作業を行ってもらい心身の維持につなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の好みの食べ物、飲み物をご家族様、ご本人様よりお聞きしバランスを考え提供させて頂き、お好きな飲み物で水分をしっかりと摂って頂ける様に支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けをさせて頂き、出来る所は行って頂ける様に歯ブラシ、歯磨き粉を準備させて頂き出来ない所は介助にて磨き残しがない様に支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、仕草を把握させて頂き、その都度、声掛けさせて頂きトイレでの排泄を行える様に支援させて頂き失禁、便失禁を少なくし気分不快を無くす様に支援させて頂いております。	排泄チェック表で水分摂取や排泄量を把握し、さりげないトイレ誘導である。広々としたリビングを歩いたり、体操をしたりと規則的な排泄につなげる支援となって、失敗時も配慮ある対応がとられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄をチェック表にて確認し、朝食時の味噌汁に寒天を使用する他、日常生活に適度な運動を取り入れられるようサポートし、便秘予防に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決めさせて頂いておりますが、随時、ご本人様の希望に添える様、又、身体の状態に合わせてゆっくりと入浴して頂けるよう支援させて頂いております。	大きな窓の外、緑の木々が見える広い浴室は寝台浴を含め3つあり、季節のゆず湯やその時その時を楽しめる工夫をしている。嫌がる人には次の日に声掛けし直す等、利用者に入浴してもらえる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせて休息を取って頂き、又、日中にレクリエーションを提供させて頂き、ゆっくりと休んで頂けるよう努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が処方薬を把握できるよう、薬剤説明書をファイルし、変更時や臨時薬処方時は目的・用法・副作用を随時申し送りし周知。通常と変化が見られる際は、服用前に薬剤説明書を確認し、看護師へ相談する事を徹底しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事、季節の食べ物等を回想法を用いてお話をさせて頂き、楽しみを持って頂ける様に支援させて頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時等ご希望にそって散歩等に出掛けて行けるよう努めております。又、ご本人様の希望に添える様にご家族様にも協力して頂き外出、外泊が出来るよう支援させて頂いております。	利用者の重度化に伴い全員での外出は難しいものとなっている。地域での夏祭り、町内運動会、又四季折々のお花見など車椅子での外出は出来る限り行っている。個別の買物や墓参り、家族での外食支援も出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域のお店に出掛け、決まった金額内でご本人が買い物ができる様に検討しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙、インターネットを使ったテレビ電話サービスを行ない、離れているご家族と顔を見てお話して頂けるよう、設備しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井が高く、開放的な作りとなっており、照明も白熱灯を使用する事で目に優しく、外の光を感じて頂けるような工夫をしております。ベランダからは楓や山々の紅葉を見ることができ、四季折々の風景を楽しんで頂けるような工夫をしております。	高い天井に自然の採光や風の流れる空間、又広い窓の外には雄大な景色が見られる。リビングにそれぞれ思い思いに寛ぐ利用者がいる。オープンキッチンの水の音や料理の良い匂い漂いまさに家庭がそこにある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間や廊下にはソファーやベンチを設置し、入居者様の思いや入居者様同士の関係性により、過ごして頂く場所や座席への配慮をしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと寝具以外は、ご自宅で使用されておられた鏡台やタンスの家具や、ご位牌など、ご本人様ご家族様の思い思いのお部屋となるよう、支援させて頂いております。	個人の生活の継続を大切に思うホームの希望で持ち込まれた筆筒や位牌、家族の写真等、自分の物や作品に囲まれたその人その人の日常が感じられる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており、敷地内は庭園や菜園へも車椅子にて出られるようになっている他、居室とトイレの扉の色を分け、色調でも認識ができるようにし、自立支援に心掛けております。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2191700117		
法人名	株式会社 アライブ		
事業所名	グループホーム楓		
所在地	岐阜県恵那市三郷町野井1736-244		
自己評価作成日	平成27年2月14日	評価結果市町村受理日	平成27年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=21">http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=21</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成27年4月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

理念「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」  
 グループホーム楓は車椅子となっても安心な設備を整えていますので、ADLの変化による居住環境を変えることなく、慣れ親しんだ場所で安心して生活を続けて頂く事ができます。  
 人の五感を大切に空間や庭園 農園など、敷地内に居ながら四季感じ、楽しんで頂く事が出来ます。 またスカイプ通話により、ご家族様や遠方にお住まいのお子様と、いつでもテレビ電話で顔を見てお話しをして頂く事が可能です。  
 自治会のご協力を頂き、地域行事への積極的な参加や、地域の方を交えた施設行事を行ない、入居者様と地域住民の皆様が顔なじみの関係となれるよう、職員が一丸となり取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」という理念の下、業務にあたれているか毎月の定例会議時に話し合いをもち、日々意識する事で、常にサービスの質の改善に繋がるよう努めております。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や地域内外ボランティア様より、お声をかけて頂く事が増え、地域行事や介護予防教室、施設行事を通じて顔なじみとなれる機会を多く設けており、利用者様が地域住民の方々との交流を楽しみにされ、笑顔が増えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の職場体験を受け入れており、実際に利用者と触れ合ってもらい、認知症を理解して頂けるよう努めております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告をし率直なご意見を頂き、次のステップしていると共に、地域の情報交換を行ない、サービス向上に努めております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加を依頼している事や市役所へ伺い、担当者で相談し、より良い協力関係を築く事が出来るように努めております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の行われる定例会議にて、周知徹底しております。またモニタリングを行ない、拘束が必要と思われる行為の原因を取り除く事に努めると共に、代償対応はないか話し合いを重ねる他、入居前のご状態をご家族様からお聞きし、ケアについてのご相談させて頂いております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症実践者研修の受講や、認知症リーダー研修受講者により、毎月行われるミーティングで、周知徹底しております。また日々スタッフ同士で、言動について意見交換が行える関係性を作れるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実践者研修の受講や、各自で自主的に地域などで行われる研修に参加しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居前に施設見学にご家族様や、可能であればご本人様にもお越し頂き、ご説明・ご了承頂いております。また多くの方がご心配される事柄については統計をとり、重ねてご説明し不安が取り除かれるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設けると共に、面会や家族会・行事参加の際に頂いたご意見ご要望は、会議で話し合い、望まれる生活を過して頂けるよう努めております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見の出しやすいようコミュニケーションを図り、定例会議や日々の終礼にて、意見交換を行なう他、気付くと共に改善事項に関しては、提案まで行い、それにより翌日の全体の課題に反映しております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内のスタッフの状況は管理者を通して把握に努めるとともに、今後の改善点など定期的に会議を重ねよりよい労働環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフに担当を持つことで、責任ある行動をとれるよう努める他、施設内外の介護技術、認知症研修などにも参加することで、質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学、意見交換の場を設けることにより、外部との繋がりを持つと同時に、お互い良い刺激になるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前にご本人様に面談し、ご心配事や望まれる生活についてお伺いしております。入居後は笑顔で寄り添い、緊張を取り除けられるようにし、意思の表出して頂ける様に努め、傾聴・受容を心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にご家族様に面談し、現在の介護状況でのお悩みや施設入居に関しての不安・要望、将来の望まれる生活について、じっくりと話し合いの場をもち、入居後日が浅い時期は面会時に加え電話でも、ご様子をお伝えしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前にご本人様、ご家族様と面談、話し合いをさせて頂きご要望、気持ちを聞かせて頂き他のサービスもお話しさせて頂き、少しでもご希望に添える様に心掛けております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき、心地よい生活の場となる様、ご本人様からのお話を聞かせて頂く場を設け、問題等に色々な方法を提案させて頂き、家族の様な関係が作れる様、心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と連絡を密に行わせて頂き、ご本人様の気持ちが穏やかに過ごして頂ける様、家族会や誕生日会に参加して頂いております。またご本人様の要望にも応えて行ける様、努めさせて頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	スカイプを利用し、お互いの顔が見え、お話が出来るよう環境を提供させて頂き、また思い出の場所にも一緒に外出が出来る様、努めております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の新しい馴染みの関係が築かれ、孤立される事のない様に媒介させて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族様からの悩み事や不安に対しお話を聞かせて頂き、ご本人様とも面会させて頂き、フォローが出来る体制を作り、相談や支援に努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の生活の拘りを職員が会話の中から汲み取る努力をし、今までと同じ生活が続けられ、又ご家族様の協力も頂き、意向に添えるよう努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前にご本人様、ご家族様と面談をさせて頂き、習慣、好み、馴染みの家具等も持ち込んで頂く事で生活環境を整え、安心して頂ける様に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が一人ひとりに寄り添い、心身状態、気分等を顔色、話して頂く声のトーン等からも把握、出来るよう他の職員との報告、連絡、相談が出来る様に日々、努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議での意見、要望、拘り等を聞かせて頂き、ケアカンファレンスを行ない介護計画に入れ込み、実践し、見直しを行いご本人様の思い、拘りの介護計画を作成する様に努めております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、朝礼、終礼にて個人の様子を職員間で情報を共有し又、記録に残す事で振り返りができ、介護計画書の見直しに努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化状況変化により新たなニーズに対し、ご本人様、ご家族様と随時、話し合いの場を持ち柔軟な対応が出来るよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	契約前の生活に近い環境が作れるよう、地域資源を出来る限り利用させて頂きご本人様の意向に添えるよう努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診への付き添いや月2回の訪問診療、往診の手配等、ご本人様やご家族様とご相談・ご意向を伺いながら、かかりつけ医との密な連携をとることで、適切な医療サポートが受けられるよう支援させて頂いております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師が配置されており、入居者様の情報の共有を行ない、介護職員医療面の指導や、相談を受け対応支援を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	週一回病院へ伺い、ご本人様や病棟職員、ご家族様と面会し、状態把握に努め、病院のソーシャルワーカーと連絡を取りながら、早期退院に向けて相談にさせて頂いております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を辿る以前から、ご本人様ご家族様の意向お伺いし、時期が来たらご家族様が代弁者として方針を選択できるよう、話し合いを重ね、必要であれば何度でも医師との面談の場を設け、看取りプランを家族と共に相談し、ご意向に沿えるよう支援させて頂いております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域主催の一時救命処置の講習への参加、年数回看護師による訓練を受け、緊急時に対応できるよう備えております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災を想定した避難訓練や消火訓練を、地域住民の方にも参加して頂きおこなっており、緊急連絡網に加わって頂いております。ライフラインが途絶えた際に備え、備蓄食料や発電機の手配を確保しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はご利用者の言葉を受容し、気持ちを損ねる事のない言葉を選び話し掛けております。又、トイレ、入浴時には露出を少なくさせて頂くよう工夫をさせて頂いております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつ、どんな時も自己決定が出来るよう、声掛けの工夫をしております。悩まれる方にもご本人の思いが聞き出せる様に努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の生活リズムを把握し、又、希望を聞かせて頂きながら一人一人のペースで過ぎて頂けるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日の始まりには好みの衣類を選んで頂き、洗面所にて鏡を見て頂き、ご自分でブラッシングして頂けるよう支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食べ物、昔ながらの食材をご利用者様より意見を頂きながら準備し又、好みを聞かせて頂き、味等に工夫をこらし食事を楽しんで頂ける様に支援しております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の好みの食べ物、飲み物をご家族様、ご本人様よりお聞きしバランスを考え提供させて頂き、お好きな飲み物で水分をしっかりと摂って頂ける様に支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けをさせて頂き、出来る所は行って頂ける様に歯ブラシ、歯磨き粉を準備させて頂き出来ない所は介助にて磨き残しがない様に支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、仕草を把握させて頂き、その都度、声掛けさせて頂きトイレでの排泄を行える様に支援させて頂き失禁、便失禁を少なくし気分不快を無くす様に支援させて頂いております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄をチェック表にて確認し、朝食時の味噌汁に寒天を使用する他、日常生活に適度な運動を取り入れられるようサポートし、便秘予防に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決めさせて頂いておりますが、随時、ご本人様の希望に添える様、又、身体の状態に合わせてゆっくりと入浴して頂けるよう支援させて頂いております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせ休息を取って頂き、又、日中にレクリエーションを提供させて頂き、ゆっくりと休んで頂けるよう努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が処方薬を把握できるよう、薬剤説明書をファイルし、変更時や臨時薬処方時は目的・用法・副作用を随時申し送りし周知。通常と変化が見られる際は、服用前に薬剤説明書を確認し、看護師へ相談する事を徹底しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事、季節の食べ物等を回想法を用いてお話をさせて頂き、楽しみを持って頂ける様に支援させて頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい時等のご希望にそって散歩等に出掛けて行けるよう努めております。又、ご本人様の希望に添える様にご家族様にも協力頂き外出、外泊が出来るよう支援させて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域のお店に出掛け、決まった金額内でご本人が買い物が出来る様に検討しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙、インターネットを使ったテレビ電話サービスを行ない、離れているご家族と顔を見てお話し頂けるよう、設備しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井が高く、開放的な作りとなっており、照明も白熱灯を使用する事で目に優しく、外の光を感じて頂けるような工夫をしております。ベランダからは楓や山々の紅葉を見ることができ、四季折々の風景を楽しんで頂けるような工夫をしております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間や廊下にはソファやベンチを設置し、入居者の思いや入居者様同士の関係性により、過ごして頂く場所や座席への配慮をしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと寝具以外は、ご自宅で使用されておられた鏡台やタンスの家具や、ご位牌など、ご本人様ご家族様の思い思いのお部屋となるよう、支援させて頂いております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており、敷地内は庭園や菜園へも車椅子にて出られるようになっている他、居室とトイレの扉の色を分け、色調でも認識ができるようにし、自立支援に心掛けております。		